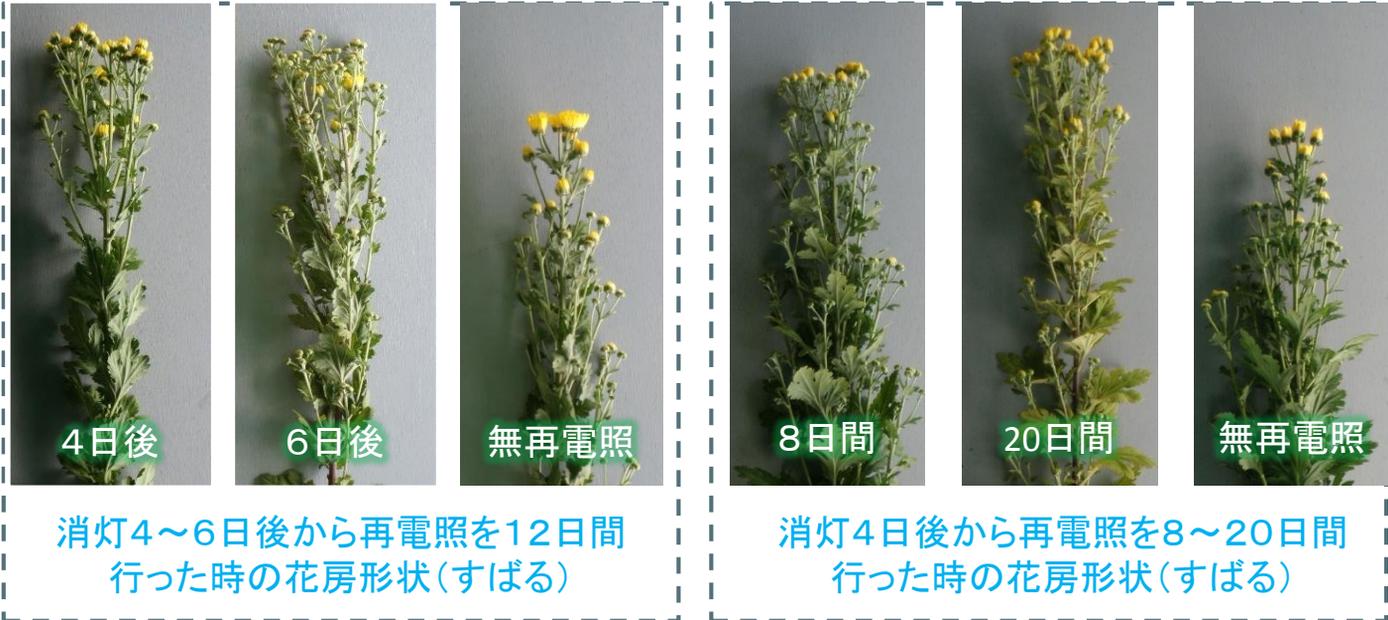


夏秋小ギクの花房形状は 再電照で調節できます



開発のねらい

夏秋小ギクを電照栽培すると、切り花のボリュームが不足する場合があります。そこで、再電照（電照を一旦終了した後に、再度、電照を行う技術）によって、夏秋小ギクの花房形状を調節する技術を開発しました。

新技術の概要

- ▶ 「すばる」では消灯4～6日後から、「はるか」では消灯2～4日後から、再電照を12日間行くと、花房長が長くなり、上位側枝の花蕾数が増加します。
- ▶ 消灯4日後から、再電照を8～20日間行くと、電照日数が長いほど、両品種とも花房長が長くなり、上位側枝の花蕾数が増加します。
- ▶ 再電照を行うと、開花が遅れます。たとえば、「すばる」では消灯6日後から12日間の再電照によって開花が10日程度遅れますので、無再電照の場合より10日程度消灯日を早める必要があります。

活用場面

夏秋小ギクの電照栽培を行っている方であれば、新たな設備投資をすることなく、電照の方法を変更するだけで切り花ボリュームが調節できます。